

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：生活造形学科

資格：准教授

氏名：中尾 時枝

研究分野	研究内容のキーワード
家政学	家庭科教育、被服、意識調査
学位	最終学歴
家政学士	武庫川女子大学 家政学部 被服学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 大学付属幼稚園・生活環境の連携事業（キッズドリームウェア）	2012年4月から毎年	付属幼稚園児がお絵かきの時間に「特別な日に着たい服」をテーマに描いたデザイン画から、大学・短大でアパレルコンストラクション実習他関連の専門授業を履修した学生達がクリエイターとして衣服制作をおこなう事業の企画・運営を行う。学生達は学んだ知識や技術を生かし、世代間を超えたふれあいから実践的に学びとる機会を持ち、より充実した学生生活の活性化にもつながっている。
2. 産学連携事業「産学共同リアル企画」	2011年9月から毎年	生活環境（アパレルコース・生活デザインコース）と生活造形学科（アパレルコース）の学生が関西ファッション連合が主催する産学連携事業の一環として「産学共同リアル企画」に参加し授業で学んだ事を生かしている。具体的には複数の企業がリアルな課題を出し、学生が企画提案した内容を企業が評価することで、学生は実践力の向上を目指し、企業は若いフレッシュな発想力をビジネスに活用することを目的としており、商品化になる場合もある。学内募集の窓口および、参加学生の企画指導および引率（山本先生・坂口先生・末弘先生と分担）を行う。
3. 武庫川女子大学衣料管理士会の運営	1996年～毎年	卒業生・在学生を対象にした「繊維製品品質管理士（TES）試験のための講習会」、「衣料管理士を目指す学生のための講習会」などの主だった運営に関わる仕事
4. 講義実習評価結果の活用	毎年	各年度、またはクラスによる特徴を考慮しつつ過去の授業アンケート結果を参考に、新しく資料づくりや課題内容を検討し、学生が受身的にならない授業展開になるよう工夫をするように努めた。

<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅰ（基礎縫い）	2013年4月～	被服造形学研究室のメンバー（末弘講師・本田助手・大西助手）と武庫川女子大学情報教育研究センター協力の下で短大・大学でアパレルコンストラクション実習を履修している学生に対して学習支援システム（Mmoa）用の教材を作成した。動画撮影・音声・イラスト・写真・解説などを入れて基礎縫いの理解を深める工夫をした。
2. ソーイング基礎2ー応用編ー	2012年03月1日	ソーイング基礎に続き、衣服構成実習を学ぶ学生を対象に、日常取り扱うことの少ない素材をつかった作品や、さらに高度な縫製技術が習得できるように工夫をし、授業ばかりでなく制作の幅を広げて応用できるように分かりやすくまとめた。
3. ソーイング基礎 ー小物の作り方ー	2011年01月	近年ミシン使って作品を作る機会が少なく、衣服構成実習を学ぶ学生を対象に、簡単な作品を楽しみながら作ることで、自然に基礎技術を学べる工夫をし、授業の理解を深め実習の参考になるように分かりやすくまとめた。

<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 資格、免許</b>		
1. 中学校教諭1級普通免許（家庭科）・高等学校教諭2級免許（家庭）、1級衣料管理士	1975年03月	

<b>2 特許等</b>		

<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 生活文化玉手箱シリーズ6「編みの造形への挑戦」山口比呂の作品と手芸教育の現場から		2015年10月21日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室	平成27年度秋期展覧会図録として出版された全55頁のうち、3. 手芸教育 (PP. 33-35) 4. 手芸を学ぶ (pp. 37) を執筆担当した。 編者：横川公子、執筆者：山本泉、中尾時枝、本田クミ、谷明日香、池田仁美、横川公子
2. 生活を科学する	共	2014年0月	光生館	生活を多方面から科学的にとらえる目的で出版された全175頁の書籍のうち、第1章(測る科学・確かな評価につながる科学) コラム：身体を観察する P 34 を執筆担当した。 編著：横川公子、瀬口和義、執筆者：瀬口和義、牛田 智、中尾時枝、吉田精作、篠塚和正、佐々尚美、河野一世、古濱裕樹、吉田恭子、北村薫子、梶原莞爾、岸川洋紀
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の開発	共	2014年9月1日	生活環境学研究 教育・研究誌 2号	末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 本学の学習支援システムμ Canを使用した教材開発の取組が実施されている中、平成24年から25年にかけて、上記のツールを利用して学生に分かりやすく予習・復習にも役立つ被服構成学分野における「基礎縫い」に関する教材を作成し、被服構成学実習関係の基礎科目を中心にこの教材を使用した。本稿ではデジタル教材を作成するに至る経緯及び作成した教材について報告した。
2. 家庭科教育中学校技術・家庭科学習指導要領の改訂による女子学生の縫製技術習得度の変化	共	2010年03月	芦屋女子短期大学研究紀要	木村恵子、吉野鈴子、中尾時枝 1989年の中学校技術・家庭科学習指導要領改訂では、男女共修を考慮した指導内容に変化し、1998年の改訂では「ゆとり」を重視して標準授業時間数が削減され、指導内容の厳選が図られた。その結果、女子学生の衣服の製作に必要な縫製技術力が低下したことが本研究で検証できた。
3. 短期大学の被服製作実習における学習指導要領改訂の影響 ―学生技術と意識変化―	共	2007年01月	日本家庭科教育学会誌	吉野鈴子、木村恵子、中尾時枝 同一短期大学の同一授業をうけている女子学生を対象とし、1993年と2003年に調査を行い、兩年の女子学生間で製作技術や意識にどのような変化があるかを明らかにするとともに、平成元年の学習指導要領の改訂が縫製技術に及ぼした影響について考察した。
4. 学生の縫製技能について	共	2004年01月	家庭科教育 78巻 1号	中尾・吉野・木村 現大学生が中学校、高等学校でどのようなものを製作したか、学生の習得した縫製技能はどの程度のものかを実態調査し、10年前の学生のデータと比較検討した。その結果、身にまとう衣服の製作の減少、制作する物が多種、制作する物の小物化が把握できた。学生の縫製技能は低いが、身につける衣服の製作への期待は高い。これらの結果を踏まえ、今後どこに重点を置いて被服製作実習を行えばよいかを探ってみた。全 (pp. 47～52)
5. 浴衣について	共	2002年07月	家政科教育 76巻 7号	吉野・木村・中尾 被服構成学実習における浴衣づくりを通して、仕上げに必要な寸法及び色のデータから近年の傾向を調査した結果、学生の裾丈は身長からの割り出し方や反物の布幅では対応しにくくなってきている事がわかった。また学生が好んで選ぶ浴衣は、以前の青色系から赤色系へと変化し、淡い色から明るい色へと変化してきており、高彩度な地色に多色使いのもので大胆、鮮烈でカラフルになってきたことがうかがえた。
6. 学生のとらえる衣服の素材感	共	2001年10月	家庭科教育 75巻 10号	吉野鈴子・中尾時枝・木村恵子 カタログ誌における衣服の素材感を評価する構造分析から、学生は接触感、硬軟感と時代感の三因子で評価していることが分かった。また三因子の中で時代感の因子はカタログ誌の衣服を購入する際に、第一に評価するものであり、カタログの誌面から受け取りやすいものであることも分かった。学生における素材感のとらえ方が時代の流れに追随しており、時代性のある触感を視覚的に判断する特徴があることが推察できた。全 (pp. 64～68)
7. カタログ誌における衣服の素材評価と情報	共	2001年02月	家庭科教育 75巻 2号	吉野鈴子・中尾時枝・木村恵子 20歳前後の女子学生を調査対象として、カタログ誌上の衣服と実物とで評価ずれが生じる素材イメージ項目を明らかにし、カタログ誌上に掲載されている商品情報の見方を調査し、商品情報と素材イメージとの関係を求め、商品情報のうち、どの情報が衣服の素材評価に大きく関わっているかを考察した。全 (pp. 42～49)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
8. 衣服の素材感について	共	2000年05月	家庭科教育 74巻 5号	吉野鈴子・木村恵子・中尾時枝 衣服の主素材は布地であり、布地そのものの感覚特性、素材感は衣服のデザインに与える影響が非情に高く、嗜好の対象になることが多いことから、素材感を表現する用語を手掛かりに、学生に広く受け入れられている用語を調査した。また学生が衣服の素材感に対してどのような感心を持っているか等、素材感のとらえかたの特徴についても検討した。全 (p. 52~57)
9. カタログ販売誌に写真で掲載されている衣服とその実際の衣服に対する評価の比較	共	1997年10月	繊維機械学会誌 (論文集) 1997版 50巻 10号	中川敦子・吉野鈴子・木村恵子・中尾時枝・多久慶子・山本倫子・明石淳子 店舗で直接得られた商品情報をもとにする購入方法と異なり、カタログ販売による購入はカタログ販売誌に掲載されている写真など、印刷物の間接情報だけが判断のもとになる特性を持ち、特に素材に関しては手に触れることなく視覚による推測を生む。そこで、カタログ販売誌の掲載写真による衣服の評価と、手にした実際の衣服の評価は異なるものと思われる為、衣服の素材感、イメージ、総合評価の観点から、両者を比較検討した。全 (pp. 72~78)
10. シアノエチル化処理による自然開絮木綿繊維の親水性の回復	単	1996年08月	繊維学会誌1996版 52巻 8号	自然開絮アメリカ綿繊維を、水酸化ナトリウム水溶液含浸後アクリロニトリル処理することにより、親水性を未乾燥木綿繊維の値に近く回復することができた。この処理により繊維の水分含有率、吸水度、示差走査熱量計測定による結合水量が増大した。また引張強度特に乾強度が上昇し、湿強度より高くなった。処理繊維の断面は円形に近づき、ルーメンやコンポリューションはほとんど認められなかった。全 (pp. 412~416)
11. Analysis of Microfibril Orientation in Cotton Fibers by Fluorescence Polarization	共	1996年06月	TEXTILE RESEARCH JOURNAL 1996版 66巻 6号	YOSHIHIKO ONOGI・MASAYO KAMATA・TOKIE NAKAO 木綿繊維の撚れについて、蛍光法による偏光顕微鏡で解析を行った。木綿繊維を蛍光性分子で高濃度で染色し、発する蛍光の偏光成分の角度分布より木綿繊維のフィブリルのよじれ角を解析した結果、繊維表面のフィブリルの配向が繊維のよじれを取り除かなくても測定できることが分かった。これより、繊維の撚れ方向とフィブリルのらせん配向方向とは逆向きで、その撚れはランダムに起こり、多くの撚れの反転が観察できた。(pp. 406~410)
12. シアノエチル化処理による未乾燥木綿繊維の高吸水性の永久維持	単	1995年08月	繊維学会誌 51巻 8号	開花後日数を異にするアメリカ綿ボールから採取した未乾燥木綿繊維を、シアノエチル化処理し、吸水度を遠心脱水法により、また結合水量を示差走査熱量計により測定した。この化学処理により、未乾燥木綿の大きい親水性が、乾燥後も永久的に維持されることが認められた。セルロース分子に導入された少量のシアノエチル基により、乾燥時の分子間の水素結合生成による非可逆的な構造形成が妨げられるためと考えられた。全 (pp. 375~382)
13. Properties and Structure of Never-Dried Cotton Fibers. (Part III) Cotton Fibers from Bolls in Early Stages of Growth	共	1992年	Journal of Applied Polymer Science 45巻	Tsuji, Nakao, Hirai, Horii 成長の早い時期の木綿ボールから採集された未乾燥木綿繊維の物性や構造について検討した。その結果、自然開絮繊維に比べて、著しく大きい湿度変化によるねじれ回転を示すことが認められた。また、II報に続いてNMRによる結晶化度を検討した結果、生長とともに増大することが認められた。(pp. 299~307)
14. 高齢女性の体型の特徴に関する研究 (第1報)	共	1991年03月	武庫川女子大学紀要38巻	林、中尾、東 高齢者の為の着心地の良い衣服設計の基礎資料を得る事を目的に、体型の特徴を観察するために、人体計測を行った。高齢女性の体型は、年をとるにしたがって姿勢が前屈し、背中が丸くなり、丈と幅のバランスがくずれ、背柱のわん曲により、上半身の前かがみを支える下半身は、腹部で受けとめ、膝は前に出て不安定で、側面から見ると、S字型を呈していることが認められた。(pp. 47~54)
15. Properties and Structure of Never-Dried Cotton Fibers. (Part II) American Cotton Cultivated in Japan	共	1990年12月	Textile Research Journal 60巻12号	Tsuji, Nakao, Mori, Yamauchi I報に続いてII報では、一般的な妥当性を求めるためにアメリカ綿と同様の研究を行い、特に、未乾燥木綿の乾湿強度の特性と関連づけ、NMRによる微細構造も究明した。(pp. 738~743)
16. 反応性基を有するモノマーのグラフト共重合によるポリビニルアルコール繊維の化学的改質	共	1989年03月	武庫川女子大学紀要36巻	辻、佃、中尾 反応性基を有するモノマーであるアクリルアミドおよびグリンジルメタクリレート触媒法およびCo <sup>2+</sup> <60>γ線照射法により、芒硝紡糸-熱処理-ホルマル化あるいはアルカリ紡糸-熱処理PVAにグラフト共重合し、特に湿防しむ度の向上を認めた。(pp. 45~56)
17. 未乾燥木綿繊維の物性に関する研究	共	1989年03月	武庫川女子大学紀要36巻	辻、中尾、加藤、百合野

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
究（第1報）国内産アジア種木綿について			巻	アジア種未乾燥木綿繊維の物性、構造に及ぼす種々の乾燥方法やアルカリ-アクリロニトリル処理の効果について検討した。さらに未乾燥の木綿繊維は未知の点が多く、湿度変化による木綿繊維のねじれ回転の特性とも関連づけて研究を行った。(pp. 57~65)
18. 湿度変化による木綿繊維のねじれ回転に関する研究（第2報）	共	1988年03月	武庫川女子大学紀要35巻	辻、中尾、藤原 他品種の木綿繊維や、中空レーヨンパイロフト・ポリノジックさらに、凍結乾燥木綿繊維や種々の化学処理を施した木綿についてねじれ回転を測り、顕微鏡により木綿繊維のconvolutionの数や方向と、湿度変化によるねじれ回転の大きさや方向との関係を検討した。(pp. 101~109)
19. 繊維の摩擦帯電に関する研究	共	1988年03月	武庫川女子大学紀要35巻	辻、中尾、清水、中田、川口、杉山 近年開発された新しい合成繊維を含めて各種繊維の帯電列について再検討を行い、他にも低温度におよぶ摩擦帯電の測定を検討した。さらに、種々開発されている、制電性、合性繊維の有効性を湿度の影響と関連づけて研究を行った。(pp. 93~99)
20. グラフト共重合と架橋による木綿およびポリビニルアルコール繊維の化学的改質	共	1987年03月	武庫川女子大学紀要34巻	辻、廣、中尾 熱処理PVA繊維及び、綿布に触媒法によりアクリルアミド、アクリル酸グラフトし、ホルムアルデヒドあるいはグリオキサールによる架橋処理を行い、防しわ度および、強度低下の軽減にはグラフト効果が認められた。(pp. 59~68)
21. シアノエチル化によるポリビニルアルコール繊維の化学的改質	共	1986年03月	武庫川女子大学紀要33巻	辻、依田、澤、中尾 熱処理PVA繊維の耐熱水性が向上し、後化学処理条件を拡大することができ、ここではシアノエチル化を液相法（一浴二浴）気相法で反応させ、防しわ性、熱セット性、染着性の向上を認めた。(pp. 33~41)
22. Soiling and Soil Release Properties of Cotton and Polyester Fabrics	共	1985年09月	繊維学会誌40巻9号	辻、中尾、土山、林、西村、三宅 木綿およびポリエステル繊維の修飾が汚染、洗浄性に及ぼす影響を検討した。化学処理だけでなく織物構造も大きい影響を持ち、一般に織密度の小さい織編物は汚染性が大きく、異形断面繊維についても洗浄性を異にすることを認めた。(pp. 350~358)
23. ナトリウムセルロゼートを中間体とする木綿の化学処理	共	1985年03月	武庫川女子大学紀要32巻	辻、中尾、赤尾、安田、鈴木、村上、今西、森田 木綿の化学処理をアルカリセルロースおよびナトリウムセルロゼートを中間体として行った。プロパンサルトンによるプロピルスルホン化においてナトリウムセルロゼートを中間体にする反応速度が大きく、より高置換度が得られ酢化、シアノエチル化においても同様の傾向が見られた。いずれの場合も非晶化をとめない、水分率、染着性の向上が認められた。(pp. 57~68)
24. アルカリ膨潤と酢化あるいはカーバモイルエチル化による木綿の化学処理（第3報）処理繊維の微細構造	共	1984年03月	武庫川女子大学紀要31巻	辻、中尾、奥野 2報の試料の微細構造をX線、赤外吸収により検討し、結晶化度、結晶間隔の変化を求めた結果、結晶化度は50%前後に低下し、置換基はセルロースII結晶の(101)面に導入されることを認めた。(pp. 11~20)
25. アルカリ膨潤と酢化あるいはカーバモイルエチル化による木綿の化学処理（第2報）高置換繊維の性質	共	1984年03月	武庫川女子大学紀要31巻	辻、宮崎、村田、小松、近藤、中尾 水酸化ナトリウム水溶液を含浸した木綿布を、無水酢酸-酢酸混合液あるいはアクリルアミドによる種々の条件で処理した試料布について、水分含有率、比重、強伸度、染色性、汚染洗浄性などの性質を検討した。(pp. 1~10)
26. 羊毛の化学処理に関する研究	共	1983年03月	武庫川女子大学紀要30巻	辻、小出、山田、中尾 従来木綿の化学処理について行ってきた知見を羊毛に応用し、アクリロニトリルやスチレンのグラフト共重合が羊毛の被服学的性質に及ぼす効果を検討した。(pp. 1~7)
27. Properties of Metal-Cation-Exchanged Carboxymethylated Cottons	共	1980年11月	繊維学会誌36巻11号	辻、平松、中尾 カーボキシメチル化綿布を種々の金属塩水溶液に浸漬して金属カチオン置換を行い処理布の耐熱、耐酸、耐腐食性、燃焼性を検討した。比較のためにアルカリ酸グラフト-カチオン置換綿布についても同様に検討した。(pp. 519~524)
28. Heat Transfer Printing of Chemically Modified Cotton Fabrics	共	1979年11月	繊維学会誌35巻11号	辻、秋田、横山、中尾 木綿布に、半液相法酢化、液相法シアノエチル化、アクリロニトリルグラフト重合、高エネルギー放射線照射等の化学処理を行ない、その物性を追求すると共に、処理方法及び処理の程度の相違による分散染料の染色性、堅牢度を検討した。(pp. 492~495)
29. アクリル酸グラフト綿布の性質	共	1979年07月	繊維学会誌35巻7号	辻、池田、長谷川、中尾 分子中にカーボキシル基を導入したアクリル酸グラ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
30. アルカリアクリロニトリル浴法による木綿の化学処理	共	1979年03月	武庫川女子大学紀要26巻	フト綿布について、機械的性質、水分率、汚染、洗浄法、染色性等を測定してCM化綿布と比較検討した。(pp. 315~319)
31. アルカリ膨潤と酢化あるいはカーバモイルエチル化による木綿の化学処理	共	1979年03月	武庫川女子大学紀要26巻	辻、久保、山田、中尾 綿布を水酸化ナトリウムとアクリロニトリルの混合水溶液に浸漬する1浴法と、浸漬を2浴にした場合とで、処理布の性質、構造を比較・検討した。(pp. 59~63)
32. Torsional rotation of cotton fibers caused by changing ambient humidity	共	1978年08月	Textile Research Journal48巻8号	辻、塚本、仲嶺、中尾 木綿を水酸化ナトリウム存在下に、無水酢酸あるいはアクリルアミドを反応させ、軽度のシアノエチル化を行ない、1浴法、2浴法による性質、構造の検討を行った。(pp. 65~73)
33. 種々の方法によるカーボキシメチル化綿布の性質	共	1977年03月	繊維学会誌33巻3号	Tsuji, Shimada, Nakao, Kawamura 水に湿らした木綿繊維を微小荷重をつるした状態で乾燥すると回転する現象を定性的に見出し、この現象をさらに詳しく追求する為、エジプト原綿、各種繊維について検討を行った。(pp. 453~457)
				辻、後竹、畑、中尾 木綿のCM化には種々の方法があり、それにより処理布の性質を異にすることが考えられるが、あまり検討されていない為、さらに広く追求し、製法の相違が性質に及ぼす影響について検討した。(pp. 133~136)

その他

<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				

**2. 学会発表**

1. 被服構成学実習におけるデジタル教材活用に関する研究「基礎縫い」を中心に	共	2013年10月	日本家政学会関西支部第35回研究発表会	大学・短大の被服構成学実習において、小・中・高等学校で既習しているであろう縫製技術の基礎テクニックができない学生が増えている。これは学習指導要領の改訂により、授業時数が削減され、中・高等学校で被服製作をしていない学生も増えている。家庭科では実践的・体験的が重視されているなか、確かな力の定着が難しい。そこで縫製技術の基礎となるテクニックについて反復学習が可能なデジタル教材を作成し、自主学習において有効な教材であるかを明らかにする事を目的にした。
2. 園児とのふれ合いから学ぶ衣服製作	共	2012年12月8日	日本乳幼児教育学会(第22回大会)	出会い、つながり、希望を育む幼稚園 話題提供者として園児とのふれ合いから学ぶ衣服製作で「思い出に残る衣服についての研究—キッズドリームウェア—2011」の取り組みについて発表
3. 衣服領域からの食の教育—食育ファッションショーの試み—	共	2010年05月	日本家政学会	本田クミ、寺嶋愛、末弘由佳理、中尾時枝 食の大切さ児童・生徒に楽しく伝える方法として、衣服を用いることで食の分野とは異なる角度から視覚的に訴えることを目指し、「食育ファッションショー」を試みた。「五味五色」をテーマにそれぞれイメージした食材から衣装を分かり易くデザインし、寸劇を交えながら、食の大切さを伝えた。
4. 女子大生の縫製技術力の背景について	共	2008年10月	日本家政学会	中尾時枝、木村恵子、吉野鈴子 女子大生の被服製作実習の縫製技術力の低下は、小学校から高等学校までに習得した縫製技術に起因すると考え、実際に制作した実習作品および習得した縫製技術を調査し、中学校の教科書の内容との関連を明らかにし、その背景を考察する。
5. 通信販売における衣服の素材情報と評価	共	1999年05月	繊維製品消費科学会	中尾・吉野・木村 カタログ販売による購入は、カタログ誌に掲載されている写真など、間接情報だけが判断のもとになる特性をもっている。近年、印刷技術の進歩によるカラー化や写真の多用などで、購買者へ提供できる情報量が増えているが、的確な商品情報の提供という観点から、衣服の素材情報に着目した。素材感を表わす用語の調査から、カタログ誌の情報と購買者が判断する素材特性との関係について、また実物の衣服との違いについても検討した。
6. 繊維集合体の嵩高性とその回復に関する研究	共	1997年10月	繊維学会	雀部典子・中尾時枝・小野木禎彦 天然の木綿繊維である綿の布団を乾燥させると、圧縮され薄くなった布団がふっくらとした布団に変身するのは、日常よく経験することであるが、この現象が、木綿繊維のよじれとその集合体の嵩高性および回復性に、繊維自身のよじれ構造とどのような関連性があるかを明らかにすることを目的に研究を始めた。まず、繊維集合体の嵩高さについてその評価方法について検討を行い、満足できる測定方法を得ることができた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
7. カタログ販売誌に写真で掲載されている衣服とその実際の衣服に対する評価の比較	共	1997年06月	繊維機械学会	吉野鈴子・中川敦子・木村恵子・中尾時枝・多久慶子・山本倫子・明石淳子 店舗で直接得られた商品情報をもとにする購入方法と異なり、カタログ販売による購入はカタログ販売誌に掲載されている写真など、印刷物の間接情報だけが判断のもとになる特性を持ち、特に素材に関しては手に触れることなく視覚による推測も生む。そこで、カタログ販売誌の掲載写真による衣服の評価と、手にした実際の衣服の評価は異なるものと思われる為、衣服の素材感、イメージ総合評価の観点から、両者を比較検討した。
8. 女子学生が好む服装とライフスタイルとの関連（第2報）好きな服装タイプと衣生活スタイルとの関係	共	1996年06月	繊維機械学会	渡辺澄子・川本栄子・村田温子・小原怜子・中尾時枝・篠田栄子・中川早苗 女子学生の服装に対する考えをもとに、衣生活スタイルがどのようなものであるかを類型化した。さらに前報で得られた服装タイプをもとに女子学生の好む服装と彼女達の衣生活スタイルがどのようにかわり合っているかを合わせて検討した結果、因子分析では7因子を抽出し、これらの因子得点よりクラスター分析を行い5つの類型に分けることができた。
9. 夫の服装に関する妻の意識調査	共	1990年05月	日本家政学会	中尾、林、小原、二階堂 日常の被服行動の中から衣服が夫婦間になどのようにかかわりを持っているのかを、妻の夫に対する服装への心配りを通して、その様相を探ってみることを目的とした。質問紙調査の分析結果、妻達は夫の服装について概ね、責任を持っている傾向がみられた。
10. 高齢女性の体型の特徴に関する一考察	共	1989年11月	日本家政学会	中尾、林、東 高齢者の為の着心地の良い衣服設計の基礎資料を得る事を目的に、体型の特徴を観察するために、人体計測を行った。高齢女性の体型は、年をとるにしたがって姿勢が前屈し、背中が丸くなり、丈と幅のバランスがくずれ、脊柱のわん曲により、上半身の前かがみを支える下半身は、腹部で受けとめ、膝は前に出て不安定で、側面から見ると、S字型を呈していることが認められた。
11. 未乾燥木綿繊維の物性に関する研究（第2報）アメリカ綿について	共	1988年06月	繊維学会	中尾、辻、森、山内 I報に続いてII報では、一般的な妥当性を求めるためにアメリカ綿で同様の研究を行い、特に、未乾燥木綿の乾湿強度の特性と関連づけ、NMRによる微細構造も究明した。
12. 未乾燥木綿繊維の物性に関する研究（第1報）国内産アジア種木綿について	共	1987年11月	繊維学会	中尾、辻、加藤、百合野 アジア種未乾燥木綿繊維の物性、構造に及ぼす種々の乾燥方法やアルカリ・アクリロニトリル処理の効果について検討した。さらに未乾燥の木綿繊維は未知の点が多く、湿度変化による木綿繊維のねじれ回転の特性とも関連づけて研究を行った。
13. 繊維の摩擦帯電について	共	1984年06月	繊維学会	中尾、辻、清水、中田 近年開発された新しい合成繊維を含めて各種繊維の帯電列について再検討を行い、他にも低温度におよぶ摩擦帯電の測定を検討した。さらに、種々開発されている、制電性、合性繊維の有効性を湿度の影響と関連づけて研究を行った。
14. 湿度変化による木綿繊維のねじれ回転（第3報）	共	1982年10月	繊維学会	中尾、辻、藤原 他品種の木綿繊維や、中空レーヨンパイロフト・ポリノジックさらに、凍結乾燥木綿繊維や種々の化学処理を施した木綿についてねじれ回転を測り、顕微鏡により木綿繊維のconvolutionの数や方向と、湿度変化によるねじれ回転の大きさや方向との関係を検討した。
15. アルカリ膨潤と置換反応による化学処理木綿の微細構造	共	1980年10月	繊維学会	中尾、辻、奥野 化学処理した木綿試料の微細構造をX線、赤外吸収により検討し、結晶化度、結晶面間隔の変化を求めた結果、結晶化度は50%前後に低下し、置換基はセルロースII結晶の(I0I)面に導入されることを認めた。
16. 湿度変化による木綿繊維のねじれ回転（第2報）	共	1978年06月	繊維学会	中尾、辻 水に湿らした木綿繊維を微小荷重をつるした状態で乾燥すると回転する現象を定性的に見出し、この現象をさらに詳しく追求する為、エジプト原綿、各種繊維について検討を行った。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本家政学会 日本家庭科教育学会 日本繊維製品消費科学会